

梅雨どきを控え、 災害対策は万全ですか？

田植え等の農繁期でもある6月の梅雨季は、大雨による水害や土砂くずれ等の災害の起こりやすいときでもあります。

そこで今月号では、市民の皆さんに国東市避難場所一覧表をお知らせし、あわせて災害等まさかのときに備えて、日ごろから考えておいていただきたいということで、国東市國廣

秀光消防長にお話を伺いました。

Q こんにちは。今日はよろしくお願ひします。梅雨の季節を迎えますが、市民の皆さんに一言お願ひします。

A 皆さん、日ごろから消防活動にご協力を賜りありがとうございます。この紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

さて、今年も梅雨の季節がやってきます。近年は、入梅が早くなり、時として豪雨で予想もつかない災害が発生しています。また、

夏は猛暑で台風は大型化し、秋の終わりまで見舞われることもあるのです。おそらく、地球温暖化による異常気象だろうと思ひますが、雨の降り方が本場にバケツをひっくり返したようで、道路が川のようになり車が前に進めないことも多くなりました。今年も、防災無線で消防関係者の緊急招集や市民の皆さんに避難勧告などを何回放送することになるかな？と心配をしています。



國廣秀光消防長

Q 私たちは、どんなことを心掛けて災害に備えればいいのか？

A 日ごろから「災害」を意識することが大切。

皆さんは、豪雨災害が起こったときに、どの道を通って、どこに避難すれば安全か、お分かりですか？ また、職場にいるときや、買い物に行っているときはどうしますか？ 子どもさんと確実に連絡がとれますか？ 状況に応じて臨機応変に対応できますか？

国東市には、土砂災害や河川、ため池の決壊など危険地域を示したハザードマップ（各区配布）があります。皆さんは自宅の周辺だけでなく、自分の行動範囲の危険箇所や迂回路も把握していますか？ どこに危険が潜んでいるか

知っておかなければ安全にはなりません。

Q 具体的には？

A いたずらに、市民の皆さんの恐怖感をおおってはならないと思いますが、阪神大震災規模の大地震が国東市で発生したら、どうなるでしょう。阪神大震災が発生したとき多くの死傷者が出ましたが、その大きな原因として老朽家屋や昭和54年以前に建築された家屋の倒壊（旧建築基準法では基礎と柱との接続基準が甘かったため、直下型地震で下から家屋が突き上げられ、その間に横揺れで柱が基礎から外れて落ち、倒壊につながったとのこと）で、下敷きになった方が多かったですと調査報告されています。

国東市の場合でも多くの死傷者が発生し、火災も起こるかもしれません。もちろん、消防本部では直ちに緊急招集をし、消防署と消防団が連携をして消防、救急、救助に全力を挙げ、国東市には災害対策本部を設置して全市を挙げて災害の対応と避難者の救済にあたります。それでも現実は、人手や資機材も不足し、道路も通れずと